

ふるさと稲瀬だより

「笑顔と活力に満ちた やすらぎの里」稲瀬町

第4号 令和2年3月30日

発行 / 稲瀬町自治協議会

稲瀬地区交流センター内

〒024-0041 北上市稲瀬町前田276

電話・ファクス 0197-65-2441

E-mail inase-kc@gol.com

20年後の稲瀬に向けて

— 「稲瀬町地域計画」の策定に着手 —

稲瀬町自治協議会では、昨年12月に稲瀬地区地域計画策定委員会を設置し、20年後の稲瀬町を見すえた地域計画の策定に着手しました。

「地域計画」は、稲瀬町が将来どうありたいか、そのためにどのようなことをしていくかを、町民自らが考え、策定するもので、北上市が定める「北上市総合計画」の中に位置づけられるものです。

町民の思いを込めて策定する計画は、町内での取組みだけでなく、市の取組みにも反映されますので、とても重要なものです。

今回のおたよりは、策定委員会ワークショップで話されていることをお伝えいたしますので、皆様からのご感想などをお寄せいただければ幸いです。

なお、ワークショップの成果は、本号だけではすべてをお伝えすることができませんので、来年度に発行する「たより」に継続して掲載いたします。

— 稲瀬町地域計画で策定しようとする内容 —

<地域の将来像>

- 2040年の目指すべき地域像
- 私たちが2040年の地域に「残したいこと・伝えたいこと・大切にしたいこと」
- 私たちが2040年に向け、これから地域で「変えなければならないこと」

<地域の目標>

- 地域の将来像の達成のために「2030年までに達成したいこと」と「そのために必要な取組み」

<計画推進の方向性>

- 子ども・子育て世代のために
- 働き盛り世代そして生涯現役のために
- 高齢者・障がいのある人のために
- 計画実現に向けた推進体制（地域づくり組織運営・担い手等）

☆ 稲瀬地区地域計画策定ワークショップ（第1回）

それぞれのテーマの20年後に向けて大切にしたいこと

○子ども達・子育て世代のために

●多世代交流

- ・高齢者の知恵・高齢者との交流
- ・二世帯、三世帯同居の必要性
- ・子どものいない家族も参加する。
- ・高齢者グループで子育て支援
- ・若者たちと交流できるイベント、飲み会等
- ・高齢者が子育て世代へのお手伝い
- ・老人が子育てアドバイス。みんなで育てる
- ・怖いおじさん、おばさんの復活
- ・近くに親がいる場合、子供を預けて老人（高齢者）と接する機会をつくるようにする。預けている間自分たちのことができる。

●地域がサポートする仕組み

- ・子育てに協力し合える体制
- ・子育て支援として子育てに必要なものをシェアしていく。
- ・地域の人たちに見守ってもらえて安心安全な子育てができるイナセ
- ・国見保育園との一体化
- ・ふれあいを感じ取れる環境
- ・地域全体での子育て、見守り、支援
- ・出生祝金 ・無償化。

●稲瀬らしい学びの仕組み

- ・小中高校を共同教育
- ・複式学級をやる
- ・汗をかく体験をさせて、生きる力を身に着けるための受け入れ地。
- ・学校、祖父母との交流し子供、お互いに教え学ぶ親子学級
- ・自宅学習→パソコンが低年齢化→学校に行かなくてもよくなる。
- ・自然学習 ・地域の人と一緒に行事を増やす。
- ・親と子が協同で経験できる環境。

●魅力の共有

- ・保育園などの良さを友人などにアピール
- ・地区外からの転入を増やす。
- ・稲瀬でなければ経験できないことを作り出す、発見する

●子どもが遊べる環境

- ・外で遊べる環境、公園等 ・遊ぶ場所。 ・安全な場所。
- ・田合田川等での魚釣り

●大切にしたい視点

- ・働きやすい環境 ・安心して子供を産み、育てる環境
- ・稲瀬の子供はみな宝。 ・地域ぐるみ
- ・子供を安心して育てられる心にゆとりある生活
- ・少子化に歯止めを 脱一人っ子、目指せ三人子
- ・若い人たちが稲瀬に住みやすい環境づくり
- ・自立性を育てる ・いじめがない ・ひきこもりがない
- ・年、学年の隔たり無く、仲が良い
- ・住みたくなる環境づくり
- ・預けやすい環境（土日、夜遅くまで）



☆ 稲瀬地区地域計画策定ワークショップ（第1回）

それぞれのテーマの20年後に向けて大切にしたいこと

○高齢者・障がいのある人のために

●大切にしたい考え方

- ・自立した健康寿命のための充実
- ・若い人たちの手本となること。
- ・障がい者に理解ある対応。
- ・家族がいなくても安心して暮らせるイナセ
- ・健康寿命を伸ばすための取り組み
- ・生涯現役

●ご長寿世代の活躍の場

- ・働けるところ。
- ・収入が取れる仕事を与える。草取りなど。
- ・農作業の手伝いをする高齢者グループを作る。
- ・フレデイ→ボランティア活動を含むようになる。
- ・体力にみあった労働
- ・百歳体操のような定期的な集まりから何らかの収入を得るための手仕事
- ・いつまでも労働者として社会参加
- ・自分が高齢者と思っていないので、ボランティアに連れ出して得意な仕事をしてもらおう。
- ・色々な能力を生かす

●助けあいの仕組み

- ・交通の手段、乗り合い
- ・声掛け一人住まい
- ・ご近所とのかかわり（見守り）
- ・外に出る習慣をつけて常に声かけのできる環境。
- ・修理、改善時の経験

●生活機能の維持

- ・巡回バス等の運営 ・交通の便 ・運転免許を返納してからの足の確保
- ・家の中の動線 ・コミバスの利用で町でのランチ会

●つながりの場づくり

- ・フレデイの回数増加。 ・フレデイ開催日の多数回へ
- ・年代別（大きな）に集まる機会を持つ。
- ・趣味の方々との交流。役割分担も含めて行う。
- ・趣味を楽しめること。
- ・意見交換。生き方、けん引談
- ・コミセンと（高齢者）保育園一体化
- ・自由に集える「タマリ場」
- ・趣味のサークル等男性の参加が少ない
- ・高齢者の昔話等の会話（屋外）
- ・ペタンク、グラウンド・ゴルフなどスポーツが盛ん
- ・近所どうしの付き合いが少なくなっている
- ・高齢者が参加しやすい地域行事
- ・楽しさのある暮らし、住居、隣近所



☆ 稲瀬地区地域計画策定ワークショップ（第1回）

それぞれのテーマの20年後に向けて大切にしたいこと

○地域らしい働き方・暮らし方

●大切にしたい考え方

- ・稲瀬はすべての面で各地区の方々「あこがれ」。住みやすさを継続する。
- ・心安らぐ住みやすいイナセ
- ・気持ちの持ちようで変わる文化をつくる気持ちも大切。

●稲瀬の資源を活かす・守る

- ・伝承教室の継続
- ・念佛剣舞、盆灯等のこれからの継続の仕方
- ・現在のままでよい
- ・現状でよい。
- ・景観→大事にしたいものを挙げ、どのようにしていくか話し合う。

●歴史遺産を大事に

- ・樺山
- ・豊かな農村（農業）（安定性）
- ・景観、変わりのない風景
- ・きれいな景観
- ・豊かな緑
- ・動植物との触れ合いを増やす。
- ・自然環境を守る
- ・自然を守る取り組み
- ・自然を大切にしたい。
- ・米作り環境を守る ・おいしい米づくり

●農業振興

- ・有機栽培 ・オーガニック ・自然を生かした農業
- ・たまにうざくなるが、ご近所付き合いが楽しい。
- ・地区内の交流があって、お互いに関心がある。口を出す、手も出す。（依頼しなくても、手伝ってくれる）。

●魅力の共有・発信

- ・日本一のお米、美味しいお米、差別化できる。
- ・他地区を見学し、良さ、稲瀬らしさ見出す。
- ・人が集まる魅力づくり。 ・地域の観光資源の今まで以上のアピール
- ・特産品づくり→米・とうもろこし

●住環境の維持

- ・暮らしやすさ 市街地までの移動時間が意外に短い ・移動のしやすさ。
- ・静か。 ・住みやすさ ・交通網整備
- ・シェアハウスを作り寄り添って生活していくということをしていく。
- ・危険との向き合い方（クマ、シカ、etc、）

●若者の活躍推進

- ・若い人の積極的な参加、どうすればよいか。
- ・若手担い手に負担とならない高齢者の手伝い。
- ・若年労働者が減少＝組織経営



☆「計画実現に向けた推進体制」については、次号に掲載いたします。

（紙面の都合により、シリーズ「自治公民館の活動」は休載しました。）